
 記念講演要旨

ミュータント系実験動物育種と野生動物の実験動物化

 Breeding and genetics of mutant strains and domestication of wildlife
for laboratory animal science

 織田 銑一
Sen-ichi Oda

 元岡山理科大学理学部動物学科
Former Department of Zoology, Faculty of Science,
Okayama University of Science

名古屋大学農学部に入學してから 50 年の大學生活に一応の区切りをつけることになった。書籍や標本類は築 40 年の民家を（家族の反対を押し切って）購入し収容することができた。書籍類や文献だけでなく、実験動物の胎仔標本、イルカ類、ニホンジカ、イノシシ、ニホンカモシカ等々の骨格標本、実験データや個々の学生の資料も保管していることを報告した。

名古屋大学博物館の研究協力員として 1952 年以来的実験動物の系統簿（それに 1943 年からの資料も若干あるが）の整理を行っている。これらは故近藤恭司先生が名古屋大学に赴任して以来の家畜育種学講座に保管されていたもので、他に門下生のものもある。ニシキネズミ（N グループ）由来である NC 系統やカスカベマウス（K グループ）由来である KK といった系統の育成当初からの個体カードをみることができる。日本産野生マウスや日本産野生ラットの育成記録や系統簿が残されており、これらの紹介を行った。当方が発見したミュータントや各種の野生あるいはペット由来の実験動物の育成過程の記録もある。

2016 年新潮 45 に掲載された論文で、実験動物学会の創立者の一人安東洪次氏が（細菌戦部隊であり人体実験を繰り返したことで有名な）731 部隊の大連支部長であったということを知った。

「731 部隊と実験動物」ということは学生時代に近藤先生から耳にしたことであったが、改めて科学研究と軍隊・戦争責任ということを目にし、昨今の学術会議の声明に係る課題を自覚した。戦中

の広島大学の平岩研究室での野生色ラットの繁殖研究や「高校生が追うネズミ村と 731 部隊」という書籍の紹介も行った。

ミュータント系実験動物育種では小眼症 eye lens obsolescence, *Elo* マウス（博士学位論文）に始まりとくに脊髄小脳変性症に分類できる歩行失調を呈す rolling Nagoya, *rol* マウス、joggle, *jog* マウス、shambling, *shm* マウス、dilute opisthotonus, *dop* ラットの解析により、その主原因遺伝子が全く異なることを報告した。またスunks ではスクラーゼ活性欠損やヒト OCA4 に相同のアルビノの発見から系統育成、遺伝子解析を紹介したが、分子生物学的解析に関しては卒業生や共同研究者に負うところが大きい。

野生動物の実験動物化に関しては 15 species 以上の哺乳類を飼育したが、その中でとくに解析が進んだ日本産野生ラット（ドブネズミ、系統名 DOB）とスunks について紹介した。多数の近交系ラットが開発されているが、日本産ドブネズミ由来（愛知県東部の設楽町）が明確にわかっている近交系は唯一といってよく、SSLP 多型率は 90% 以上という特異な位置にある。スunks に関しては 2015 年のシンポジウムで紹介したこともあり、多くを省略した。

40 年余の大学教員を総括してみれば、実証的手法で真理を解き明かすといった研究者 researcher という立場よりもミュータントや野生種の発見・育成による研究素材の開発に尽力した探索者 searcher の立場にあったように思える。